

一般社団法人  
日本介護美容セラピスト協会  
●大阪府大阪市福島区海老江1-11-17  
TEL 0120-551-334  
URL www.beauty-touch-therapist.jp/



一般社団法人日本介護美容セラピスト協会  
代表理事  
酒井宗政



コミュニケーションを重ねながら肌に触れていく

私たちが確立した「ビューティタッチセラピー」を行う専門のセラピストは現在約2700人います。

### 高齢者との接し方など 介護の基礎を学ぶ

ろうようにしています。ご自身の手でやってみることもまた、精神面でプラスの効果をもたらします。さらに、自身でも積極的にスキンケアを行っていたりメイクをしていたりする人のほうが、認知機能や日常生活動作（ADL）が高だけでなく、お出かけなどの活動にもつながりやすくなります。

ですが、セラピストとして活動するためには、協会が発行している認定証を取得していただきます。認定証を取得するためには、「ビューティタッチセラピスト認定基本講座」を受講します。大体2、3週間に一回ずつ通うシステムになっており、「ハンドセラピー講座」から始まって「フェイシャルセラピー講座」を2日間「メイクキュアセラピー講座」を2日間、レクリエーションの運営方法などを学んだり、培った技術を復習する「総合講座」を1日、高齢者との接し方や福祉用具の扱い方などを

学ぶ「介護基礎講座」を1日というかたちで、大体3、4カ月ぐらいで7日間計36時間をかけて学ぶカリキュラムとなっています。各講座を受講した後の実践課題を終えて認定試験を受け、合格できれば「ビューティタッチセラピスト」に認定されます。

受講に当たっては特に要件を設けていませんが、介護福祉士や看護師の資格をもち、現役で施設で働かれている人であれば「介護基礎講座」が免除されます。介護や看護の経験がない人には、高齢者に関する講座をきちんと受けてもらうようにしています。

受講生で一番多いのは介護や医療関係の人ですが、次いで美容関係の人も多い状況です。美容関係の人は「自分のサロンで高齢者向けのメニューを増やしたい」「ご自宅に向いてセラピーしたい」といった思いがあるようです。また、介護関係では最近、施設で働く職員が技術や知識を身に付けて自施設で実践されるケースが増えています。そのため、施設からの依頼で出張講座を開くことも増えました。受講年齢も幅広く、なかには

## case 01 一般社団法人日本介護美容セラピスト協会

# 「触れる」ことで安心感に 「キレイ」になれば 生きがいにつながる

スキンケアやメイクアップなど、“肌に触れるケア”を行うことで肌だけでなく脳や心、身体にも働きかける「ビューティタッチセラピー」。リラックス効果や血行促進だけでなく、集中力向上なども期待できるという。同セラピーを確立しセラピストの育成も行っている、一般社団法人日本介護美容セラピスト協会代表理事の酒井宗政さんにうかがった。

### 笑顔になつてもらい 自立支援を応援

当協会では、「介護美容」について、「介護を受けられている人および高齢者に対する美容療法」と認識しています。そのなかでも私たちが提唱している「ビューティタッチセラピー」は、スキンケアやメイクなど、肌に触れるケアを通じて「心と身体の健康を促していく美容療法」と定義づけています。セラピーを受けたことで、肌の領域に作用していくことはもちろんですが、身体や脳、心のケアにもつながっていきます。触れることを通じて笑顔になつてもらい、ひいては自立支援を応援することが目的です。

セラピーは、手のマッサージを行う「ハンドセラピー」、フェイシャルトリートメントからパックで仕上げていく「フェイシャルセラピー」、フェイシャルトリートメントからメイクで仕上げていく「メイクキュアセラピー」、ふくらはぎから足裏をアプローチする「フットケアセラピー」というメニューに分かれています。ハンド

セラピーは、両手の指先から肘までを30分かけてマッサージしていきます。動きにくかった指が動きやすくなったり、皮膚温度が上がることや安眠につながったりといった効果があります。フットケアは、あまり圧力をかけずにリンパの流れを促すような施術です。特にむくみが改善したと感じてもらう人が多いです。

また、認知症の高齢者にいずれかのセラピーを行うと、ハンドセラピーでは「幸福感」、フットケアセラピーでは「心地よい」と感じる脳の領域を活性化させることがわかり、身体のマッサージが認知症の周辺症状の改善に効果的であることが示されました。

セラピーの際には特に、コミュニケーションをとることを重視しています。その日の状態によっては触れられることを嫌がる人もいますし、何をされるのか不安なままではリラックスにも心のケアにもつながらないため、声かけはとても重要です。

また、セラピストが一方的にスキンケアやメイクアップを施すだけでなく、ご自身にも参加しても

60代や70代の人もいます。

認定後の活動については主に、介護施設で行うスタイルや在宅訪問で行うスタイル、地域とのタイアップで実施するスタイルが多いです。具体的な事例を挙げると、地域での活動では、イベントが行われる際にセラピストが自ら声をかけをして簡単な体験コーナーを設けたり、地域包括支援センターへ介護予防に関する研修の企画を提案して実現した例もあります。ほかにも癌の当事者が集う「がんカフェ」のなかで実施したり、地域の空き家を活用してセラピーが受けられるような活動をしている人もいます。たんにセラピーを行うだけでなく「地域に貢献したい」という気持ちをもつ人が多いため、セラピーを受ける対象が高齢者だけにとどまらず、地域住民同士のつながりだったり、親子での触れ合いを目的としたイベントも行われています。

美容に特化した  
デイサービスがオープン

今後は介護美容を広めていくことはもちろん、日常的にスキンケ

アやメイクをする人のほうが「自立度が高い」という研究結果を得ています(図表)ので、セラピーを再びお手入れするきっかけにしてもらい、日常生活でもセルフケアを続けてほしいと考えています。

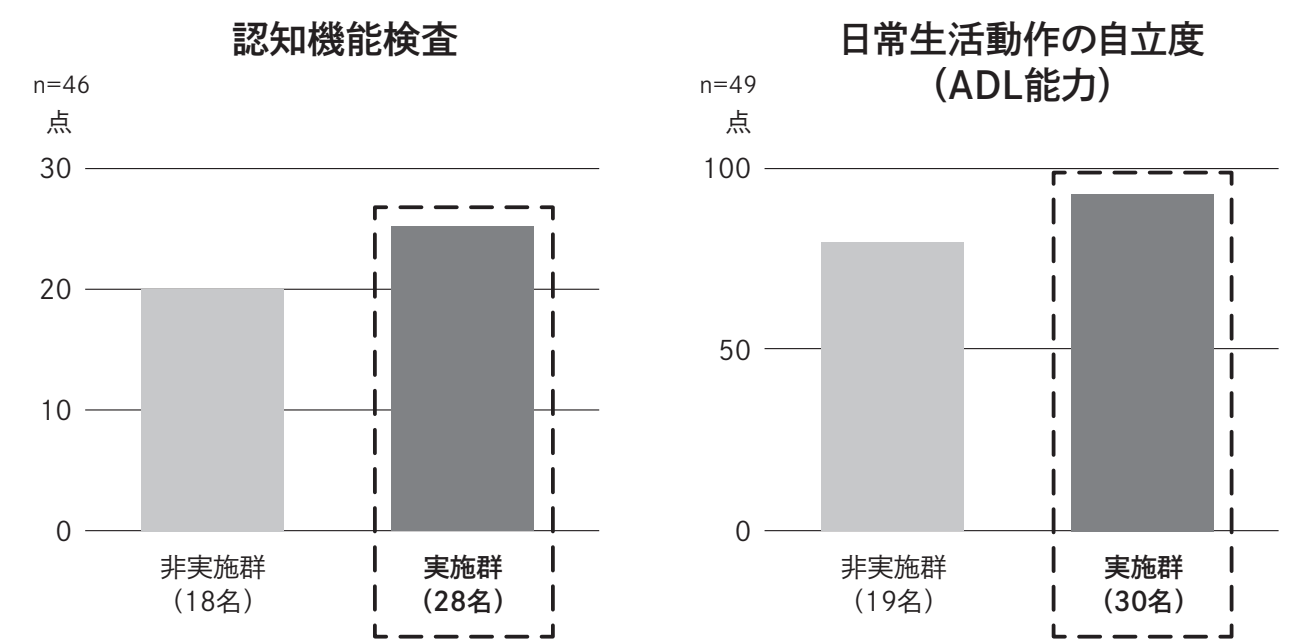
そのために、高齢者でも使いやすい化粧品(モモテ)を、株式会社ナリス化粧品と共同で開発しました。高齢者の肌に合った成分を使用していることはもちろん、高齢者でも使いやすいテクスチャーや容器仕様を採用しています。

また、今年の8月に介護美容に特化したデイサービス「ふれあ姫島」をオープンしました。さまざまなセラピーを受けられるほか、セルフスキンケアメイクができるコーナーやリハビリができるマシンなどを設置しています。美容を楽しんでもらうだけでなく、自信を取り戻してもらうきっかけになればと考えています。

ふれあ姫島  
Instagram



図表 スキンケアと認知機能・自立度の関係



出典：日本早期認知症学会誌 2015 Vol.8 No.2 「定期的な化粧行動の有無による身体・認知・精神機能の比較 要介護高齢女性における検討」

続きは、本誌10月号をご覧ください